

平成20年度第2次新まちづくり計画事業進行調書(その1)

計画体系コード	1-2-1		事業名	学校・地域連携事業				
担当	教)生涯学習部生涯学習推進課 中 211-3872							
全体計画								
事業内容	<p>学校・家庭・地域が一体となった学校施設の利用や地域活動及び地域ぐるみで学校教育を推進するとともに、子どもを豊かに育てていくための地域教育力の向上を図ることを目的として、放課後や学校週5日制による休日、学校教育における総合的な学習の時間などにおいて、子ども向けプログラムの実施や地域人材の情報収集と活用などを行う。</p> <p>なお、地域の人々が共通の目的や関心のもとに、日常的に集い、学び、活動する場として「開かれた学校」づくりを進め、学校が地域の身近な生涯学習の拠点となることを目指している。</p>			<年度別の事業内容>				
				<p>19年度 新規5校 (2年目5校、3年目5校、4年目5校、5年目以降25校:計45校)</p> <p>20年度 新規5校 (2年目5校、3年目5校、4年目5校、5年目以降30校:計50校)</p> <p>21年度 新規5校 (2年目5校、3年目5校、4年目5校、5年目以降35校:計55校)</p> <p>22年度 新規5校 (2年目5校、3年目5校、4年目5校、5年目以降40校:計60校)</p> <p>(運営委員会への委託は4年間、5年目以降は自主運営)</p>				
事業内容・量・場所・規模・件数等	平成19年度事業内容(決算)			平成20年度事業内容(予算)				
	<p>各地域・学校の特色を生かして、自然体験や社会体験、世代間交流などの子ども向けプログラムのほか、地域人材の情報収集と活用等の事業を実施した。</p> <p>土・日曜日、平日の放課後、総合的な学習の時間などに、主に学校を会場として実施している。</p> <p>実施回数 303回(うち子ども向け216回)</p> <p>参加者数 48,188人</p> <p>内訳 運営側 4,884人 子ども 30,555人 大人 12,749人</p> <p>主な内容 花いっぱい運動、読み聞かせ会、交通安全教室、授業支援、学校環境整備(花壇整備)、地区スポーツ大会、河川敷ゴミひろいボランティア、ホテル放流会 等</p> <p>【事業費(決算額) 2,175千円】</p>			<p>子ども向けのプログラムの実施 地域住民やボランティアが放課後や学校週5日制による休日、学校教育における総合的な学習の時間などにおいて、自然体験学習や社会体験活動、世代間交流などの子ども向けのプログラムを企画、実施。</p> <p>地域人材の情報収集と活用 学習活動や地域活動において指導者や講師となりうる特色ある地域の人材の情報収集を行い、人材・ボランティアバンクの作成などによって、団体の個々の活動や子ども向けプログラムの実施に生かすとともに、学校教育における行事やクラブ活動、総合的な学習の時間などへの活用を図る。</p> <p>学校施設の利用のあり方を検討 学校施設の有効利用や効率的な管理運営を図るため、学校開放施設の利用ルールや地域住民による自主管理運営のあり方を検討する。</p> <p>実施校 新規5校 (2年目5校、3年目5校、4年目5校、5年目以降30校:計50校)</p> <p>【事業費(予算額) 2,508千円】</p>				
達成目標の状況								
項目		18年度末 (現状)	19年度末 (実績)	20年度末 (予定)	21年度末 (予定)	22年度末 (予定)	22年度末 (目標)	
事業実施校数		40校	45校	50校	55校	60校	60校	
市民・企業等との協働の状況(市民・企業等の参加、支援、協力の状況)								
<p>市民との連携、市民参加 PTAや地域住民を運営委員として積極的に活用し、行事等の企画・運営に携わっている。</p> <p>企業等との連携・協働 [資金協力] [人材協力] [情報協力] [その他の協力] 市民・企業等が参加しやすい環境づくり 研修等において、地域人材の情報収集や活用に対する適切な支援を行うことにより多くの市民参加を促している。</p>								

平成20年度第2次新まちづくり計画事業進行調書(その2) (単位:千円)

計画体系コード		1-2-1		事業名	学校・地域連携事業		
評価(成果)				課題			
<p>学習活動や地域活動において指導者や講師となりうる特色のある地域の人材の情報収集を行い、団体の個々の活動や子ども向けのプログラムに生かすほか、学校教育における行事や総合的学習などへの活用を図り、日常的に集い、学び、活動する場としての「開かれた学校」づくりや、学校が地域の身近な生涯学習の拠点となることを目指す。また、地域・学校・家庭がそれぞれの役割を果たしながら連携することで、札幌の明日を担う子どもたちのびのびと成長・発達することが期待できる。</p>				<p>当事業によるさまざまな活動を通じて、学校と地域の連携が深まることにより、地域住民にとっても学校が身近なものとなり、地域教育力の向上が見られつつあるが、運営が学校中心になりがちであることから、学校側の負担が過重とならないよう配慮する必要がある。</p>			
今後の事業の予定・方向							
<p>研修会や活動内容の視察を通じて、運営委員会に対する指導・助言を行うとともに、地域に根ざした特色のある事業内容の充実を図りながら、実施校の拡大を図る。 また、地域に密着して一定の事業・行事が毎年開催されるが、事業内容が硬直しないよう、運営委員会の構成の改善等を図り、新規事業への取り組みを促す。</p>							
事業費の推移							
項目		19年度	20年度	21年度	22年度	計	
計画	事業費	-	-	-	-	-	
	財源内訳	国・道支出金					
		市債					
		その他					
予算	事業費	2,526	2,508	-	-	5,034	
	財源内訳	国・道支出金	0	0			0
		市債	0	0			0
		その他	0	0			0
実績	事業費	2,175	-	-	-	2,175	
	財源内訳	国・道支出金	0				0
		市債	0				0
		その他	0				0
事業費の進捗率		(19年度実績事業費 + 20年度予算事業費) / (計画事業費)					-
計画との差異(予算・事業内容・規模・時期等)							
(全体)							
[19年度]							
[20年度]							